

学校全体で進めるボランティア活動・学年ボランティア 埼玉県立不動岡誠和高等学校

学校の概要

学校の規模

学級数：12学級（内社会福祉科5学級）

生徒数：419人

教職員数：42人

体験活動の観点からみた学校環境

本校は羽生市と加須市の2市にまがっている。両市は、地理的には都心から電車で1時間位のところに位置し、人口6万人前後である。田山花袋の「田舎教師」の舞台となったところでもあり、今でもその武蔵野の風情を残し、広大な自然に恵まれている。

校地の真ん中を、川幅6mほどの「会の川」が流れ、春には兩岸には桜、斜面には菜の花が満開になり、鯉や鮒などの魚やカルガモなどが泳いでいる。

地元には特別養護老人ホームや介護老人保健施設等が点在している。

社会福祉科を設置した平成3年度より、ボランティア活動を全校生徒が年間に35時間以上実施している。300時間、500時間も実施する生徒や1,000時間に達した生徒もいる。

平成11年度からボランティア活動を単位として認定している。

連絡先

〒348-0024

埼玉県羽生市大字神戸706番地

電話：048-561-6651

FAX：048-560-1051

体験活動の概要

活動のねらい

思いやりの心・人権尊重の精神の育成

自発的な福祉活動や共に生きる態度の育成

地域に根ざした活動を通して地域社会を理解し、地域との連携を図る。

主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

学年ボランティア：学校行事

各学年ごとに每学期末に実施。ボランティア活動の導入段階（ボランティア学習）として実施。施設訪問（老人ホーム、老人福祉センター、保育所、身体障害者施設等）、通学路・駅周辺の清掃、近隣の老人ホーム等へメッセージカードや千羽鶴のタペストリーを作成、贈呈

体制等の工夫

各学年の学年ボランティア係の教員・ボランティア活動委員が中心になって企画・運営。ボランティア活動センター担当教員2名が各学年の学年ボランティアの連絡調整

ボランティア活動センター（校務分掌として位置付け、教諭2名が担当。生徒会組織）

各クラス2名で構成されるボランティア活動委員会が中心となり、情報の収集・提供・相談を行い、ボランティア活動個人記録カード制を導入している。

生徒全員ボランティア保険加入

活動の成果等

生徒が自己の存在に自信を持ち、他人を思いやる心や公共心を学ぶ機会となっている。

生徒の自主的なボランティア活動・福祉活動の動機付けの役割を果たしている。

地域の方々との交流により、地域に根ざした教育が実践できる。

本校の福祉教育の理解が得られている。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 生徒全員がボランティア活動を体験する機会をもつことで自主的なボランティア活動への動機付けとする。
- イ 施設訪問や清掃活動等を通して福祉マインドを育成し、福祉の理念、知識や技術を体験的に理解する。(ボランティア学習)
- ウ 学校全体で生徒、教員が共にボランティア活動に取り組むことで本校における福祉教育の浸透並びに醸成を図る。
- エ 近隣の施設など地域に根ざした活動を通して視野を広げ、豊かな心と社会的規範を地域から学ぶ。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「学年ボランティア」

イ 実施学年

全学年

ウ 活動内容

年度により多少の違いはあるが、主に以下の内容で実施している。

施設訪問：特別養護老人ホーム，身体障害者療護施設，保育所等で清掃，交流，レクリエーション（歌，ハンドベル，寸劇水戸黄門，紙芝居，エプロンシアター，手遊び歌）を行う。

お便り活動：メッセージカードを作成し，特別養護老人ホーム，身体障害者療護施設，老人デイサービスセンターに届ける。

制作活動：千羽鶴でタペストリーを制作し，近隣の施設に贈る。雑巾を制作し，近隣の施設に贈る。

地域清掃活動：通学路から南羽生駅（通学駅）までのゴミ，缶拾い，通学駅の清掃等
校内清掃：合宿所，生徒会館，図書室整理等

ビデオ等による学習：主に1年次の1学期末はボランティア活動の意義，心構えなど

エ 教育課程上の位置付け

学校行事としての位置付けである。

オ 実施時期（期間，時間数，日数等）

毎学期末に特別に編成する。学期ごとに全学年 1日 約3時間（9時～12時）

カ 活動場所

校外：近隣の特別養護老人ホーム，身体障害者療護施設，保育所，通学路から南羽生駅等（通学駅）

校内：合宿所，生徒会館，図書室，教室等

キ 継続の状況等

普通科，社会福祉科共に1学年全員が「社会福祉基礎」を履修し，福祉やボランティアの基礎・基本を学ぶ。学年ボランティアは「社会福祉基礎」で学習した知識，技術を体験的に学習する場である。社会福祉科では介護福祉士の国家試験受験資格，訪問介護員1級，普通科においては選択により訪問介護員3級課程の修了証書を取得できる。このような福

社の学習に学年ボランティアの経験が生かされ、さらに、自主的なボランティア活動へと発展している。

2 活動の実際

(1) 事前指導

- ・ 施設訪問の際は施設の説明をし、歌などの出し物の練習及び持ち物の確認、万一の場合に備え、感染症予防についても指導する。校内ボランティアにおいてもあらかじめ持ち物・服装等指示する。各学年の担当教員は事前に施設と連絡を取り、施設のニーズを確認しながら、日程や内容について打ち合わせをする。
- ・ 生徒が施設訪問、校内活動など偏りなく、出来るだけ様々な体験ができるよう、学期ごとにメンバーを交替して実施している。

(2) 活動の展開(表1)

ア 施設訪問

自転車で近隣の老人ホーム、身体障害者療護施設、保育所に行く。施設の指示に従い清掃(窓拭き、草取り、車いす掃除など)。その後、「リンゴの唄」、「上を向いて歩こう」などの歌をお年寄りと一緒に歌う。保育所では生徒が各グループごとで手遊び歌、紙芝居、ハンドベルなどを園児に披露する。お年寄りや園児とふれあいを深めながら、どの生徒も生き生きと活動している。訪問を終えた後、さわやかな表情で学校へと自転車で戻る。

イ 校内活動

メッセージカードの作成(表2)や折鶴でタペストリーを作成。クラスごとに生徒が下絵を考え、クラス全員で鶴を折り貼り付けて完成させた。近隣の施設に寄贈し、喜ばれた。

通学路～南羽生駅

学校をスタートして南羽生駅までのゴミや缶を拾いながら歩く。約20分ほどの道のりをゴミ袋片手に引率教員1名と楽しく会話をしながら行う。袋いっぱいのゴミを手にし、ゴミ問題を痛感しながらも、道行く人々の励ましの言葉に感動している。駅・トイレ清掃では利用客から「ご苦労様。」の暖かい声かけに笑顔いっぱいになる。社会生活におけるマナーを身をもって体験し学んでいる。

図書室整理

普段何気なく利用している図書室の整理を通して図書とふれあう。

けやき会館、合宿所等清掃

生徒が清掃する機会が少ない場所をキレイにすることで清々しさを感じている。

	1学期	2学期	3学期
1年	施設訪問（7月13日） ・特別養護老人ホーム（4ヵ所）、障害者施設、保育園を訪問し、清掃・交流等をした。 校内活動 ・週中、メッセージカードを製作し、特別養護老人ホームにボランティア活動委員が持参した。 ・図書室整理 ・図書室整理	オリエンテーション（12月19日） ビデオ「はじめてをはじめてよう」による学習 校内活動 ・推中、メッセージカードを制作し、特別養護老人ホームにボランティア活動委員が持参した。 ・図書室整理 ・校内清掃：けやき会館、合宿所、特別棟廊下	校内活動（3月17日） 校内清掃：けやき会館、合宿所、特別棟廊下 図書室整理 施設訪問に向けての練習
2年	施設訪問（7月18日） ・特別養護老人ホーム（2ヵ所）、保育所を訪問し、レクリエーション・清掃・交流等をした。 出張学習の遠征 ・学校から駅までの道と、駅周辺のごとごいを行った。 校内活動 ・メッセージカードを作成し、身体障害者療養施設にボランティア活動委員が持参した。	施設訪問（12月18日） ・特別養護老人ホーム、保育所を訪問し、レクリエーション・清掃・交流等をした。 出張学習の遠征 ・学校から駅までの道と、駅周辺のごとごいを行った。 校内活動 ・メッセージカードを作成し、身体障害者療養施設にボランティア活動委員が持参した。	校内活動（3月17日） ビデオによる学習 これまでの活動の反省並びに来年度に向けての活動計画作成
3年	施設訪問（7月18日） ・老人ホーム、老人デイサービスセンターを訪問して清掃活動と話し相手を探め、交流等を行った。 ・保育所（2ヵ所）を訪問しエプロンシアターを上演したり、歌やダンスを披露して、交流等を行った。 校内活動 ・校内清掃：合宿所、体育館通路、けやき会館の清掃活動を行った。 ・暑中見舞いを兼ねたメッセージカードを作成し、老人ホームにボランティア活動委員が持参した。	施設訪問（12月19日） ・老人ホーム、老人デイサービスセンターを訪問して清掃活動と話し相手を探め、交流等を行った。 ・保育所（2ヵ所）を訪問しエプロンシアターを上演したり、歌やダンスを披露して、交流等を行った。 校内活動 ・クリスマスカードを作成し、老人ホームにボランティア活動委員が持参した。	

表2

メッセージカード作り	
1日時	7月18日（月） 00 -11 30 （感想文の記入を含む 2時間位が制作時間）
2内容	飛び出す仕組みを利用した暑中見舞いのカードを作る ・1人1点がめやす ・お年寄りには目の不自由なことがあるので、大きめ・はっきりがポイント ・入れる文字 あいさつ（例：暑中お見舞い申し上げます）
3制作場所	各教室
4学校の用意	・ケント紙（1人あたり 2.5枚から3枚） ・色鉛筆 ・カーボン紙 ・のり ・イラスト見本 文字見本 ・折り紙
5生徒の用意	・はさみ ・シャープペン ・ボールペン（見本をなぞるのに使う） ・色をつけるもの（水性ペン・マジック・マーカー・・・） ＊文字は黒だと重苦しく感じることがあります。
6カードの提出	クラスごとに係が回収
7カードの届け先	特別養護老人ホーム 園 7/18 13:20 係が持参し、直接手渡す
8係	8名（各クラス2名）

1 目的 7月18日（月） 00 -11 30
 2 趣旨 感想文の記入を含む 2時間位が制作時間
 3 内容 飛び出す仕組みを利用した暑中見舞いのカードを作る
 ・1人1点がめやす
 ・お年寄りには目の不自由なことがあるので、大きめ・はっきりがポイント
 ・入れる文字 あいさつ（例：暑中お見舞い申し上げます）
 4 制作場所 各教室
 5 学校の用意
 ・ケント紙（1人あたり 2.5枚から3枚） ・色鉛筆 ・カーボン紙
 ・のり ・イラスト見本 文字見本 ・折り紙
 6 生徒の用意
 ・はさみ ・シャープペン ・ボールペン（見本をなぞるのに使う）
 ・色をつけるもの（水性ペン・マジック・マーカー・・・）
 ＊文字は黒だと重苦しく感じることがあります。
 7 カードの提出
 クラスごとに係が回収
 8 カードの届け先
 特別養護老人ホーム 園 7/18 13:20 係が持参し、直接手渡す
 9 係
 8名（各クラス2名）

身体障害者療養施設にてレクリエーション



南羽生駅周辺清掃



メッセージカード作りのねらい

- (1) 学校や自宅のできるボランティア
- (2) 人と接するのが苦手でも物を作るのが好きな生徒にできるボランティア
- (3) 相手の顔を想像しながら制作する楽しみがある。
- (4) 飾っていたいただけると長時間見る側を楽しませることがができる。

メッセージカード



ボランティア活動個人記録カード



保育所にてレクリエーション

(3) 事後指導

感想文を書き、活動の自己評価を行う。アンケートを実施する場合もある。

3 体験活動のための体制

(1) 学校の体制

ア 学年ボランティア係

各学年ごと2名の教員が担当。企画運営し、引率等は学年の教員全員で取り組む。

イ ボランティア活動センター（校務分掌として位置付け、教諭2名が担当。生徒会組織）

各クラス2名で構成されるボランティア活動委員会が中心となり、情報の収集・提供・相談を行い、ボランティア活動個人記録カードを導入している。担当教員が外部との窓口になっている。（校内2カ所にボランティア掲示板設置）

ウ ボランティア活動検討委員会（教員組織）

ボランティア活動センターの管理、運営のための教員組織としてボランティア活動検討委員会（ボランティア活動センター主任を委員長とし、ボランティア活動センター担当教員、社会福祉科主任、各学年主任、各学年ボランティア係で構成）を設けている。3年間を見通した学年ボランティア活動の内容や教育活動の中の位置付け、全校の教職員が学年ボランティア活動の企画・指導・運営できるシステムづくり、学年間の調整、費用の検討をしている。

平成9年度に、事故に対する緊急連絡体制、感染症に配慮した事前調査、事前学習、評価の方法の検討等、交流に必要なマニュアルづくりをし、その後の取組にも生かしている。

エ 家庭との連携

学年ボランティアを実施する際、保護者宛の文書で内容を知らせる。施設訪問の生徒は保護者の承諾書が必要である。また、PTA活動の重点目標に「PTAボランティア活動を盛んにする」を掲げ、各支部ごとに老人ホームや障害者施設を訪問している。こうした活動を通じ、本校のボランティア教育の理解を得ている。

オ 地域、関係団体・施設・機関との連携

地元の社会福祉協議会や社会福祉施設等の協力を得ながら実施している。さらに、市のボランティア団体の連絡会に加入したり、本校教員が社会福祉協議会主催のボランティア講座（本校会場）や訪問介護員養成講座の講師を務めるなど互いの連携を図っている。

(2) 活動の場や指導者の確保等の手立てや工夫

継続して活動しているため、恒例の活動となっている。さらにこれらの施設から学校外のボランティア活動の依頼があり、多くの生徒が参加し、評価を得ている。介護福祉士や訪問介護員の資格取得のための現場実習でもお世話になっており、日頃から交流をもっている。施設訪問では

職員の指示に従い、教員が引率する。メッセージカードや折鶴のタペストリーでは美術科の教員のアドバイスを得た教員が生徒に指導する。

(3) その他

ア 生徒全員、ボランティア保険に加入。(個人負担500円) 事前指導で交通安全や、感染症について指導する。

イ 加須市福祉マインド、羽生市社会福祉協議会、羽生市ボランティア連絡会から助成をうけている。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 生徒が自己の存在に自信を持ち、他人を思いやる心、社会の規範を学ぶ機会となっている。

イ 地域の方々との交流により、地域に根ざした教育を実践し、本校の福祉教育の理解が得られ、また保護者への啓発にもなっている。

ウ 生涯を通じたボランティア活動、自発的な福祉活動の導入並びに進路決定の機会にもなっている。(3学年のアンケートの結果、学年ボランティア後、9割の生徒がボランティア活動をしたいと思い、うち6割が実施した。)

エ 学校外のボランティア活動が単位として認定されている。

生徒(), 教員(), 施設職員()の感想

南羽生駅の掃除やゴミ拾いをしました。駅に行く道にはいろいろなゴミがたくさん落ちていました。特に多かったのが、タバコの吸い殻や空き缶、お菓子のゴミです。ゴミ箱に捨てずに道に捨てている人が多く、ショックでした。ゴミ箱に捨てるという習慣を少しでも多くの人に心がけてほしいと思いました。(通学路～南羽生駅清掃)

暑かったけれど楽しかったです。私は窓拭きを中心にやりました。その後、草取りをして、施設中をピカピカにしてきたのでお年寄りの人達も喜んでくれました。掃除の後、校歌を歌って帰ってきました。大人になったら「老人ホームの仕事をするのもいいなあ」と思いました。(施設訪問：老人福祉センター)

初めはどんなふうにかいたらいいか迷ったのですが、作業しているうちに元気で過ごしてほしいとかお体に気をつけてとか色々浮かんできました。なかなかお年寄りの方へメッセージを書くこともなかったのでいい機会が出来ました。心を込めて書いたので、お年寄りの方に喜んでもらえたら嬉しいです。(メッセージカード作り)

最初は面倒だと思っていた生徒もお年寄りとの交流の中で、喜ばれたり、「また来てね。」という言葉がかけられると、生徒の表情が明るく、柔和になった。施設訪問によって、多くの生徒が「自分が役に立っている、認められている」という自己の存在感が強化された。

施設訪問だけが学年ボランティアではないが、やはり施設訪問で生徒が得るものは大きい。利用者の方の生活を壊さず、又職員の方の手を煩わせず、お互いにとって心あたたまふれあいにすべく今後も活動を充実していきたい。

校内清掃で廊下のしみ等、一生懸命落とす姿が印象的で、普段の清掃とは違う面を見せる生徒がいたことに驚きを感じた。

お年寄りがとてもイキイキし、良い影響を与えている。生徒の態度も良い、是非継続して訪問して欲しい。お年寄りがメッセージカードを自分の部屋や車いすに飾ったり大切に持っている。清掃等とても助かっている。(特別養護老人ホーム) 限られた時間ではあるが生徒が元気良くていい。(身体障害者療護施設)

	平成 12 年度	平成 11 年度
1年	25.0	15.6
2年	32.1	40.9
3年	45.2	44.1

集計は、ボランティア活動個人記録カードに基づく。各学年とも4月入学時から平成13年1月までの累積時間である。

	普通科		社会福祉科	
	2単位	1単位	2単位	1単位
3年	1	6	17	13
2年	4		1	
1年			2	
計	5	6	20	13

教科「社会福祉基礎」の増加単位とする。35単位時間(約60分×35)をもって1単位とする。2単位まで取得可。老人ホーム、障害者施設、保育所、養護学校等での活動が多い。

(2) 課題

ア 学年ボランティア活動推進のための全校職員の協力体制を一層強化させる。

イ 学年ボランティア(学校外の活動も含む)のニーズ調査と事前、事後指導を充実させる。

ウ 「総合的な学習の時間」との連動した学年ボランティアの活動内容の編成。例えば「総合的な学習の時間」においては、施設訪問のための事前学習、事前指導を行い、学年ボランティアで実施する等

5 今後の取組の方向

(1) 学年ボランティアの内容の充実、開拓等、ボランティア学習にふさわしいものとする。

(2) ホームページを開設し、本校のボランティア活動の広報と情報収集により、ボランティア活動の取組に関するグローバルな情報発信と交流の基地とする。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動には、老人福祉センターや保育所など施設訪問や地域清掃活動などがある。活動事例として挙げられている「学年ボランティア」では、まず1年次に自主的なボランティア活動のための学習を行うなど3学年を見通した活動体系を準備している点に特色がある。具体的な活動は、近隣の施設を訪問し、窓拭きや車椅子の掃除、お年寄りとの歌による交流などの活動を行ったり、学校から最寄りの駅までの清掃活動、駅のトイレ清掃などの活動を行ったりしている。お年寄りや駅の利用者から感謝の言葉をもらい、生徒に「自分が役に立っている、認められている」という気持ちが生まれ、他人を思いやる心、社会規範を学ぶ機会となっているという。

このような活動を行うためには、高等学校という段階に応じたボランティア活動の意義についての学習を充実させ、自主的な活動を生み出すことが大切である。